

学会ハイライト

第43回日本小児皮膚科学会学術大会を開催して

(2019年7月20日・21日, 大宮ソニックシティ)

松原 知代

獨協医科大学埼玉医療センター小児科 教授

はじめに

第43回日本小児皮膚科学会学術大会を、2019年7月20日(土)・21日(日)の2日間で、埼玉県大宮駅近くのソニックシティで開催させていただきました。埼玉県で開催されるのは初めてでしたが、予想より多くの参加者があり(総数806名)、2日目昼には抄録とコンgresバッグがなくなってしまう、申し訳なく思っています。とても充実した学会となり、ご参加くださったすべての方に感謝いたします。

テーマ

今回のテーマは「皮膚から全身を診る—小児科と皮膚科のコラボレーション—」としました(図1)。お子さんに皮膚疾患がみられた場合にかかるのは皮膚科か小児科ですが、皮膚症状が先でも実は全身性疾患だったケースや、逆に全身症状が主体で小児科医が先にみていろいろな検査でも診断がつかずに皮膚生検で確定診断できるケースもあり、まさに皮膚科と小児科の連携が必要になる分野です。

オープニングとして会頭講演「皮膚から全身を診る」をさせていただきました。学会のイントロダクションとして興味をもってもらえたと感じました。

プログラム

特別講演, 招聘講演, 教育講演3つ, シンポジウム4つ, 共催シンポジウム2つ, 共催セミナー9つで、免疫・アレルギー, リウマチ疾患, 感染症, 血管



図1 学会ポスター



図2 懇親会の様子

腫などの分野から幅広い内容にしました。特別講演「病原性Th2細胞による慢性炎症制御」(千葉大学・中山俊憲教授)では、「Th1病やTh2病は従来考えられていたTh1/Th2バランスの崩れによっておこるのではなく、病原性のTh1/Th2/Th17細胞分画が記憶細胞になる段階で形成され、この病原性記憶Th細胞がTh1病、Th2病、Th17病と呼ばれる炎症疾患をひきおこす」という考えのもと、「病原性記憶Th細胞を制御することで難治性の慢性炎症の治癒できる」ことをテーマにご講演されました。招聘講演「Inflammasome-mediated disorders of the skin」をされたHal Hoffman教授(カリフォルニア大学サンディエゴ校)は2001年に自己炎症性疾患の代表である家族性寒冷蕁麻疹の遺伝子異常が1番染色体のCIAS1であることを2001年に報告された先生です。インフラマゾームによっておこる自己炎症性疾患の最近のトピックスについてお話しされました。

若手研究セミナーとして基礎研究のシンポジウムを企画しました。内容はどれも今後の病態解析・治療の発展が期待できる内容で、聴衆はあまり多くありませんでしたが活発な討論が行われました。一般演題71題では、口演発表者にもすべてポスター掲示をしてもらって優秀演題を選出しました。ポスターはすべての参加者が一般演題を

ゆっくりみることができて議論できる利点があり、実際ポスター討論の時間にはたくさんの方がお集まりになっていました。

懇親会は、現天皇陛下がお飲みになっていらっしゃる青島酒造「喜久酔」の樽酒(順天堂大学小児科同門の鈴木正之先生より寄贈)で鏡開きをしてにぎやかに始まりました。ここでは当院の職員で組織される「獨医連」メンバーによる阿波踊りが披露されました。参加者も一緒に踊ってくださってたいへん盛り上がりました(図2)。

おわりに

来年2020年は東京オリンピックの年です。第44回日本小児皮膚科学会学術大会(<http://jspd44.umin.jp/>)は、会頭が森脇真一教授(大阪医科大学皮膚科学教室)で、2020年7月11日(土)・12日(日)に大阪府・千里ライフサイエンスセンターで開催されます。多くの先生方とまたお会いできるのを楽しみにしています。

最後に、学会のすべての参加者に感謝するとともに、副会頭の獨協医科大学埼玉医療センター皮膚科教授・片桐一元先生、皮膚科医局の先生方、小児科医局の先生方、山口大学小児科同門会、順天堂大学小児科同門会の先生方に、心よりお礼申し上げます。